

News Letter

発行

特定非営利活動法人子どもシェルターモモ
〒700-0861 岡山市北区清輝橋1丁目2-9
電話・FAX 086-206-2423



CONTENTS

- ・巻頭言 …………… 1
- ・インタビュー「人」…………… 2
 柚木幸子さん
- ・シェルターネット全国会議 …… 3
- ・特集
 子どもの人権と性被害・加害 …4～8
- ・「モモの家」通信 …………… 8
- ・「あてんぼ」通信 …………… 9
- ・「学南ホーム」通信…………… 9
- ・「アフターケア」通信………… 10
- ・モモ新人職員紹介 …………… 11
- ・事務局だより …………… 12

表紙絵の言葉 内村 暁

「小さな灯火」
時として人間の善性を
信じられなくなるような 世界にあっても
パンドラの匣に残った 希望のように
闇夜を小さく照らす光が
今もどこかで灯っているのだと
紙の上に 目をこらします

巻頭言

「認定」の失効について

NPO法人子どもシェルターモモ 理事長 東 隆司



今回は、残念な内容のご報告をしなければなりません。

子どもシェルターモモは、平成25年2月、岡山市から認定NPO法人の認証を受けることができ、モモに寄付をしてくださる個人や法人にとって税務上の優遇措置が受けられることになりました。

その結果、賛助会員が増加し、企業や企業家からもご寄付をいただけるようになり、財政が安定し、子どもたちのための支援の幅が広がってきました。

認定NPO法人の認証は5年ごとに更新され、更新のために審査を受けなければなりません。

モモでは、本年2月からの更新をするために、岡山市の審査を受けていたのですが、10月16日付で「認定」を更新しないとの通知を受けました。

理由は、特定非営利活動法人促進法に定める「受け入れている寄付総額の70%以上を事業の活動費に充てている」という要件を満たしていないというこ

とでした。

この5年間には会員や企業等からいただいたご寄付の外に、亡くなられた方から多額の遺贈があり、寄付の総額が多額となり、事業費に充てる割合が70%を下回ってしまったことが原因となりました。

理事者が認定基準の内容を把握し、モモへの寄付総額が多額となった場合に対応すべき方策を準備していれば、このようなことにはならなかったと思います。

モモにとって大きな打撃になりましたが、ご寄付をいただいた皆様にもご迷惑をおかけすることになり、申し訳なく思っています。

本年10月16日以後のご寄付は税制上の優遇措置を受けることができなくなりました。

岡山市の担当者によると、今後、5年間は「認定」の申請はできないとのことですので、ご寄付により法人財産内容が強化されつつあることを機に、令和3年度から目標として挙げてきた社会福祉法人化を目指したいと考えています。

NPO法人オカヤマビューティサミット
代表理事

柚木 幸子さん

女性が笑顔に 子どもが笑顔に 社会が笑顔に

入口の支援が必要

NPO法人を立ち上げた当初は美容や健康に関するイベントの開催がメインでしたが、西日本豪雨（2018年7月）後、被災地でボランティアマッサージをする中で、生活に不安を抱える人たちをサポートしていきたいと思い、美容技術の取得などを通じたひとり親・困窮世帯の就労支援・自立支援事業をスタートさせました。いわゆる「出口支援」と言われる活動です。本当に困っている人とつながるためには「入口支援」である相談事業の必要性を感じ、2021年からは24時間受付のSNS相談窓口も開設しました。また、親子で入居できる緊急避難シェルターも用意しました。他にも毎月最終土曜日に「もったいないマーケット」を開催しています。そこでモモさんからいただいた子どものおもちゃや、生活雑貨等必要な人に渡しています。

私の原点を作った伯父・伯母との生活

5歳の時、両親が離婚し、父方の伯母の家で育てられました。伯母の夫（伯父）は面倒見がよく、いろんな人が相談事を持ち込むため、自然と人が集まるような家でした。ただ、それを支える伯母の苦労はかなり大きかったと思います。

10歳の頃、父が脳出血で倒れました。リハビリを経て退院してきた父と、伯母宅の隣家で暮らし始めました。左半身不随の父との生活はヤングケアラー状態でしたが、伯父夫婦やいとこが手伝ってくれ、孤独や寂しさを感じることはありませんでした。

一方で、何かと口出ししてくる伯父や伯母への反発もあり、中学時代はよく家出をしました。今思えば、一種の「試し行動」だったのかもと思います。

2週間家出し、帰宅した時、何も言わずに静かに玄



関の引き戸を閉めた伯父の態度に「あきらめられた。これ以上したらいけない」と思いました。叱られると反抗したくなりますが、「あきらめられた」怖さは忘れられません。これが最後の家出になりました。

「働く意味」の大切さを教えてくれた義祖母

高校も合格していたのですが、「働きたい。自分の力で生きていきたい」という思いが強く、中卒で社会に出ました。ほどなくして、家庭の境遇が似ていた元夫と結婚。出産・育児を彼の祖母が支えてくれました。伯母の家での手伝いを通じて食事の支度もできるようになっていましたが、義祖母が教えてくれた手料理は忘れられません。とにかく働き者で70歳を過ぎても働き「誰かに必要とされているから働く」が信念でした。

見て育ったことが、今の私を作ったのではと思っています。

自立を目指す女性の通過点でありたい

「助けてー」と声を出す人の助けになりたいと仲間を集め、今は6人のスタッフと一緒に切り盛りしています。DVを受けて心身ともに疲れ切った女性や、独り身のお母さんが自立を目指していく通過点になるような支援をしたいと思っています。先日、数年前から関わりのある親子の娘さんが修学旅行のお土産を買ってきて自ら渡してくれました。成長していく姿に接し、熱いものが込み上げてきました。

子どもシェルター全国ネットワーク会議開催

9月30日、10月1日と広島で「子どもシェルター全国ネットワーク会議」が開催されました。4年ぶりの顔を合わせてのリアル開催で、全国から正会員22団体、準会員3団体に加えて、キリン財団、JANPIA、パブリックリソース財団、こども家庭庁等からの参加もあり、総勢140名という大きな会になりました。モモからは理事長を始め14名が参加しました。前年度策定した「子どもシェルター運営指針」に対応した第三者評価項目について担当者からの説明、総会、分科会と盛りだくさんの内容でした。総会后、「運営」「コタン（子ども担当弁護士）」「スタッフ」

「自立援助ホーム」の分科会に分かれ、参加者それぞれから課題を出し合い、交流を深め、励まし合いました。



運営分科会の様子

元気で楽しそうにしていることが大事

ネットワーク会議の代表を務められている札幌のシェルター「レザビリカ」の内田弁護士のユーモアのある開会挨拶や、来賓の広島弁護士会会長の「子どもシェルターが全国にあって、こんなに活気に満ちていることに驚いた」とぞっくばらんな話から始まった全国会議でした。参加するまでは、堅苦しい感じの会かなと思っていましたが、同窓会のような雰囲気でした。また、新しく開設するシェルターを“苦勞する仲間”として全国のみんなで応援するぞという空気を感じました。

「運営指針」に基づく第三者評価項目への意見交換も「子どもシェルター」の意義や役割を再確認する時間になりました。たたき台を作った方々の顔を直接見ることができ、シェルターの理念と想いの強さを感じました。

私が参加した「自立援助ホーム分科会」では、それぞれのホームの様子を話すことから始まりました。どこのホームも日々の支援に苦勞されており、子どもへの関りをどうしたらいいのかという話で持ち切りでした。例えば金銭面では、成人年齢が18歳になったことで、自身でキャッシュカードが作れ、スマホ決済で現実感なく買い物ができるようになり、困難を抱えてしまう子が増えており、どう関わればいいのかという悩みが共通して出されました。結論として、ホームにいる間に失敗してもらって、弁護士やおとなに相談するという経験ができることがよい

あてんぼホーム長 岡嶋安起

のかもしれないというところに落ち着きました。

コタン弁護士との関係についても話題が出ました。スタッフ不足から、宿泊や食事作りをしてもらっているところもありましたが、私は、あてんぼでの経験から、自立援助ホームにも厳しい状況を抱えている子もいて、代理人として弁護士が関わってくれていることは、子どもにとって力強い存在であること、また応援者が多いことが子どもの成長に繋がっていると感じていると発言しました。

2日目はシェルター退居者へのアンケート調査の結果報告がありました。子どもたちから、制約の多い生活の中でも、スタッフに自身の気持ちや意見を聴いてもらえたなど、よかったことがたくさん出ていました。スタッフの尽力が伝わってきて、嬉しくなりました。そして、明日から自分も頑張らないと、と背筋が伸びました。

ファンレイジングについて、パブリックリソース財団の河合将生さんの話もありました。これまで私は資金調達については、なかなか理解できなかったのですが、河合さんの話はわかりやすく、すっと入ってきました。ホームページの作り方にも工夫が必要だということ、お金だけでなく、人材や多様な資源を獲得しなくてはいけないこと、それには働いている人たちが元気で楽しそうにしていることが第一歩であると言われ、納得できました。

子どもの人権と性被害・加害

旧ジャニーズ事務所社長の男子の未成年者への性加害は社会に大きな問題を投げかけました。男子も性被害を受けること、被害者は親を始め、身近な大人にも助けを求めることができなかつた。抱え込んだ心の傷は被害を受けて数十年を経ても癒えていないことが伝わってきます。今号では、子どもの性に関する問題に焦点を当てて、4人の専門家にご意見をいただき、皆さんで考え合うことができると特集を組みました。

学校での性教育の現状

中学校養護教諭（匿名）



学校では保健体育の授業で性教育

小学校3・4年の保健の授業で二次性徴を学んで中学校に入学しているはずですが、覚えていないと話す子がほとんどです。自分の体を知ることは大変重要なので、本校では中学1年生の保健の授業「生殖機能の成熟」を体育科の教員が男女一緒にクラス単位で授業した後、復習という意味で養護教諭が男女別に2回目の授業を行います。男女別と言っても内容は同じです。

男子はよく、仮性包茎について心配しますが「日本人の7割は仮性包茎だから心配なくていいよ」と授業の中で正しい情報を伝えます。女子については排卵や月経痛（月経前症候群）やおりものについてなどより詳しく話すようにしています。

保健体育の授業とは別に、中2ではネットでの性のトラブルやプライベートゾーンについて、中3では性的自立という概念を通して大人になるとはどういうことかを、学活の時間をもらい話しています。

また、CAP（Child Assault Prevention、いじめ・虐待・性暴力など子どもへのさまざまな暴力から自分の心と体を守る、暴力防止のための予防プログラムを実施する団体）など外部団体や医師・助産師などによる性教育出前講座が公立中学の多くで実施されており、ワークショップでコンドームの使い方やデートDV、性感染症について学んでいます。こうした出前講座には保護者も参加できるのですが、実際に参加する保護者の数が少ないのが残念です。

日本の性教育の方向性

現在、文部科学省の学習指導要領で「性交」は教えていけないことになっており、教科書では“性的接触”という言葉を使いつつ、射精や受精・性感染症などを教えています。

日本では、1990年代に、エイズ感染の広がりを受けた性教育ブームがあり、その頃はもっと具体的に教えることができましたが、2000年代から性教育バッシングが起こったため、具体的な性行動を教えることが難しくなりました。

ただ、2009年にユネスコが策定した「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」が諸外国では性教育の指針とされており、子ども自身が性を通して人との関わり方を考えられるようにする“包括的性教育”の基準に合わせた、指導案作成を模索する教師もいます。

私自身は、性は人権であり、子どもの人権の1つとして性について知ることは重要だと考えて、今後も性教育に取り組んでいきたいと思っています。

中学生の性をめぐる問題

実際に授業をしていて、中学1年の時点では、性行為について理解していない子の方が多いような印象があります。友達から聞いて詳しく知っている生徒が一部いますが、二極化しているのではないのでしょうか。

生徒が性被害を受けて相談にくるケースは少なく、なかなか表面化しません。先日、好意を持っている男子と一緒にいて胸を触られたり性的な写真を送られたりした女子生徒が、何か月も悩んで親にも友達にも言えずにいて、やっと相談してくれたことがありました。他校の生徒と交際して妊娠した子が20週を過ぎてから相談に来て、ギリギリで中絶したり、外出先で出会った男性に強制性交の被害を受け、緊急避妊薬を処方できる病院に行かせ、そこから性被害のワンストップ支援センターにつないだケースもありました。

同じ学校に加害した生徒がいても、被害を受けた生徒から“誰にも言わないで”と言われてたら、聞いていても加害生徒に話すことはできない場合があります。学校としてできることは限られています、

「あなたは悪くないよ」と伝え、その生徒の人権を守るために何が最善なのかをよくよく考えて対応する日々です。

保健室には性被害ではなくても、学校でリストカットをする子や、薬を大量に学校で飲んでしまうオーバードーズの子が来ますし、頭痛や腹痛を訴えて来る子は多いです。言葉に出して言っていることが全てではないので、言葉の奥にあることを考えつつ、思春期特有の様々な悩みを抱えた生徒にとって、自分が“最後の砦”だと思って、生徒に接するように心がけています。

性の問題を抱える子どもへの支援

片山 恵子さん

(社会福祉士・公認心理師、
元県児相・女相職員)



性的虐待を受けた子への対応

性の問題で児童相談所（児相）が対応するものに、性的虐待があります。

性的虐待のケースでは、子どもの安全が最優先で、再被害にあわないためにも、必要に応じて一時保護やシェルターを使うことがあります。子どもの話を丁寧に聞いていくということはもちろんですが、被害によっては傷の手当、緊急避妊薬服用、婦人科での検査、といった対応や司法（警察）対応、精神面の状態もケアしていきます。難しいのは、性的虐待をしていない方の親（多くは母親）への対応です。女性として子ども（娘）に嫉妬する親がいることもあります。反応は様々なので、説明を丁寧にしつつ、子どもと一緒に支えるキーパーソンとして協力していただくよう働きかけます。

これら急性期の対応に加え、最終的には子どもが自立できるまで、中長期に支援が必要です。家族以外に子どもたちを身近に支える学校や医療や福祉など地域の資源と連携して伴走していきます。ただ、17歳ギリギリで児相に相談が来た子は（基本児相の対応は18歳まで）次にどこにつなげるか悩ましいです。その子をどこにつなげれば自立できるか、「ちゃんとわかってくれる人・団体」につなげていくことが必要です。

実際は、子ども自身が“生きていてもいいんだ”と思えるようになるまで、何年も何十年もかかる

ケースが多いのが現状です。

問題行動の背景にある要因を想像して

最近、トラウマインフォームドケア（心的外傷について理解し、それに配慮した対応をすること）ということがよく言われます。少し困っている子・困らせてしまう子がいたら、“トラウマのメガネ”をかけて、その子を見て、背景にどんな事情（心の傷）があるのか、想像してみしてほしい。思春期の子どもたちは、自分をうまくコントロールできず、イライラしがちなので不適切な行動をしまいがちですが、おとなは、あれこれ口出しするのではなく、子どもの事情を考えた言葉をかけながら、見守りをしてほしいです。

学校や保育園などで子どもに関わる仕事をしている人は、性被害を受けた子や性加害をする子どもの反応について、トラウマの基礎知識を持って何故そういう行動をするのか見立てて、傷を増やさない言葉かけをしてほしい。そうしないと、子どもの行動は変わりません。

特に、性的虐待を受けた子は、自傷行為を繰り返したり、家出をしたりすることがあります。それを問題行動と決めつけないで、子どものSOSに気づき、「あなたは悪くないよ」と伝えつつ、安心・安全な環境を確保し、伴走していければいいですね。

性加害をしてしまう子

性加害で児相の相談にあがってくるのは、14歳未満で触法（刑罰法令に触れるが対象にならない）行為をしてしまった子です。あまり数は多くありませんが、家庭や施設で子ども同士の被害・加害の相談もあります。性加害の問題を抱えた子どもたちの中には、虐待やいじめ等力による支配を受けて育ってきている子が多くいます。被害経験のあることが加害をしてもよいという話ではありませんが、その経験によって、相手を支配する手段として、性加害をしてしまうことがあります。こうした認知の歪みがあれば治療も必要になります。

支援者は自分を見つめなおすことも必要

性教育では、小学校低学年くらいから人としての権利や、境界線が脅かされてはいけない、といったことが繰り返し教えられて、身につけることが大切だと思います。最近、やっと強姦罪が強制性交罪となりさらに不同意性交罪と名称が変わりましたが、同意とは何か、言葉で「いいよ」と言っても気持ち

は違うこともあることを、子どもに伝えていくことが必要と思います。

子ども達に関わるうえで私は、人権について考えるワークには定期的に参加するようにしています。それは、私自身が育ってきた時代や家庭環境で根深く身につけてしまっている価値観で、子どもに対応してしまいそうになることが怖いからです。支援に関わるおとなは、ときどき自分を見つめ直しながら、人権やジェンダーについて子どもに話していければいいのではと思います。

自分を守るための正しい性教育が必要

市場 恵子さん

(社会心理学講師・カウンセラー)



家庭の中で起きている性虐待

40年間、大学や看護専門学校で心理学、社会学、人間関係論、ジェンダー論などを教えてきました。

教職に就いて間もなく、学生から手紙をもらい、「小学5年生のころ、兄が私の布団に潜り込んでくるようになった。家族に訴えても信じてもらえず、兄が（進学で）家を離れるまで続いた」と打ち明けられました。腕や脚には生々しい傷跡があり、自分を傷つけることでやっと生き延びているようでした。

性虐待の加害者は実父・義父・叔父・祖父・兄・従兄など。家の外では、保育士・教師・塾の先生・コーチ・近所のおじさんなど。幼い子どもには何が起きているのかわからないまま、嫌な感情や恐怖が残ります。

子どもを守るためにできること

米国で開発された「CAP（子どもへの暴力防止）」は、子どもたちに自分自身を守るための知識やスキルを教えます。誰もが持っている大切な権利（「SAFE安心」「STRONG自信」「FREE自由」と、それが侵されたときにとる行動の選択肢（「NOイヤと言う」「GO逃げる」「TELL相談する」）です。

性虐待は女子だけでなく、男子にも起きます。断ることも逃げることもできず、暴力に遭ったとしても、「あなたは悪くない」「信頼できる人に相談して」と子どもたちに伝えてきました。

“正常性バイアス”（都合の悪い情報を無視したり過小評価したりする認知の歪み）が働くと、「そんなことがあるはずがない」「夢でも見たんだろう」「作り話かもしれない」と信じてもらえないことがあります。さらに、被害者が自分の安全を守るために、体験時のショックや感情を凍結保存し、脳内に隔離して長い間、思い出さないこともあります。自分を責めたり、加害者を守ろうとして、誰にも言えないことも。

だからこそ、周囲のおとなが異変に気付き、子どもの話に耳を傾け、できるだけ早く適切なケアにつなげる必要があるのです。

誰かに話して

ノルウェーの短編映画「パパ、ママをぶたないで」（アニータ・キリ監督）には、DV環境に苦しむ少年ボーイが登場します。ボーイは「パパがママを殴るのは僕のせい？」と自分を責め、王様に手紙を書きました。王様は「君は悪くない。君は勇気がある。誇りに思うよ」と言ってくれます。パパは刑務所に入り、加害者更生プログラムを受けることになりました。映画の副題は「誰かに話して」です。映画では隣のおばさんや犬、鳥たち、そして王さまがその大切な役割を果たしています。

自尊感情を育む性教育

岡山保健所では90年代から中高生への「出前」性教育事業を始めました。性感染症や望まぬ妊娠、性暴力やデートDVを防ぐため、学校からの依頼を受けて、講師を派遣。私も講師の一人です。「ジェンダー平等」「自尊感情」「性の健康」「性の多様性」「人権」を基本に、年齢に応じた内容を提供しています。学校現場には「歯止め規定」があるため、教師は「性交」について教えられません。私たち「出前」講師は必要であれば、妊娠・避妊・中絶について具体的にお話しします。

小・中学校では恥ずかしそうに下を向く子、性器の名前にゲラゲラ反応する子もいたりしますが、講演が進んでいくと次第に視線をあげ、静かに話を聴くようになります。講義後に届く子どもたちの感想を読むたび、活動を続けてきてよかったと実感しています。

再犯をなくすために

受刑者の中には、子ども時代に虐待や性暴力を受けた人が多くおられます。誰にも助けてもらえな

かった過去のトラウマが「怒り鬼」となって暴力の連鎖を生んでいるのです。

鳥根県の官民協働刑務所「鳥根あさひ社会復帰促進センター」では、受刑者同士が人生を語ることを通じて犯罪の原因を探り、更生を促す活動（TC：回復共同体）を実施。このプログラムを受けた人たちは社会復帰後の再犯率がぐっと下がります。

自分を大切に思い、見守ってくれる仲間がいれば、暴力や犯罪と決別し、新しく生き直すことができるのです。希望をつないで、そんな社会を実現していきますように。

性被害を受けた 子どもの症状と 関わり方

中野 善行さん
(精神科医)



性被害を受けた子の精神面への影響

性被害は、幼少期に受ける場合と、思春期に受ける場合ではその影響に違いがあります。

幼少期に受けた性被害（性的虐待を含む）は、本人に知識がないため性被害と自覚することができなく、大人から受ける親密な行動として、ときには「特別に愛されている」として、理解されることがあります。また、「二人だけの特別な秘密にしておこう」という大人の巧みな言葉かけによって長年表面化しないケースもあります。

自分が「特別」扱いを受けている、あるいは寵愛されていると認識し、快感や喜びを感じることもさえます。他人を喜ばせようと無意識のうちに性行動（性的虐待を受けた子どもにみられるトラウマ反応）をします。例えば施設の男性職員の前でミニスカートで足を組んだり、やたらと身体接触をおこなったりすることがあります。その由来を知ると、そのような行動を揶揄したり、蔑んだりするのは決してできないはずで、成長後に罪悪感や自己蔑視や絶望感で非常に苦しむことがみられるのです。

4つの虐待（身体的、精神的、性的、ネグレクト）の中で、性的虐待が一番絶望感が強いにもかかわらず、もっとも援助を求めにくいものではないでしょうか。自傷行為だけではなく自死のリスクもとても高いと言えます。

思春期に性被害を受けた場合は、多くの場合は知

識があり、「性被害を受けた」という自覚が生じ、他者に助けを求めていくことが、幼少期よりは、可能です。ただ、助けを求めた友人や親や教師などが取り合ってくれないと、人間不信が強まります。そのため、被害を受けていないと否認したり、自分に落ち度があったのかと自責的になったりするかもしれません。またPTSD、対人恐怖症、パニック障害、過呼吸、自傷行為など後遺症と思われる症状が出たり、人間不信からひきこもったりします。わけのわからない漠然とした恐怖に突然襲われてしまうこともあります。

不安や恐怖は未来に生じることにに対して起きると私が若い頃には習ったのですが、その人たちは、過去（の不条理な出来事）が筆舌に尽くしたいくらい怖いのです。過去の記憶に襲われるのです。通常ではありえません。一体何がそんなに怖いのかと尋ねて、わかりませんというこたえが返ってきたら、もしかすると過去が怖いのではないですか？と尋ねるのもよいでしょう。（危険が間近にあると怖いように、トラウマ体験が心の中で間近にあるのもしれません）

過去の性被害と現在の症状が結びつかないため、医療を求める人はとても少ないのが現状です。病院で、傷つくこともとても怖いのです。一般の人でも、怖くて、検診を受けない人、受診しない人はとても多いのです。ましてや、言わんやおやでしょう。ですから、恐怖をととても大切に扱わなくてはなりません。決して軽んじてはなりません。

もうひとつ大切にしてほしいのはその人たちの羞恥心です。羞恥心から自死を選択する人も少なくないのです。マスコミに騒がれた被害者・加害者本人、そしてその家族は自死のハイリスクの人たちです。

怯える人、怖がる人をいじったり、からかったりする文化の中で私は育ちました。そのような文化を私たち年長者は深く反省するべきですね。

性暴力は人権侵害

性被害は子どもの基本的な人権を脅かすことであり、性的虐待も性被害もすべて人権侵害だと私は考えています。他者を自分の欲求、欲望のために利用することは、人権侵害につながりやすいのです。被害を受けた子は、本人の人権が尊重されていない状態にあるため、自己肯定感が乏しくなりやすいのです。自分で自分を尊重できるように周りの人が関わっていくことが大事です。

性被害を受けた子どもをケアする場合は、子ども

と加害者を分離し、子どもが安全に、安心できる環境を整えることが大切です。さらには加害者でない保護者が子どもを守るように生活を組み立てていくことです。また、本人の自覚がないように見える場合も、心の傷は深いことを心のどこかに留めて置きましょう。

支援者のありかた

旧ジャニーズ事務所の事件のように、子どもをグルーミングしてしまう可能性を、すべての子どもの福祉施設は持っていると思います。支援者・支援団体は、このことを深く考えておかなければならないと思います。とても残念ことに身近にもそのよ

うな例はありました。

子どもたちには、自分は特別に大切な存在なんだと自覚して行ってほしいと、虐待された子どもに関わる人はみな思っています。精神科医の故中井久夫は、“unique oneness” 感覚（自分は他の誰とも異なるかけがえのない独自の存在であるという感覚）と、“one of themness” 感覚（みんなと同じように人類の一員と言う感覚）、矛盾するこれら両方の感覚をもつことが、メンタルヘルスを保つ上で、とても重要であると述べていました。

とても険しい道ですが、みんなで一緒に進んで参りましょう。（取材・文責：東りえ・笹田志保）

子どもシェルター

「モモの家」通信

「子どもシェルター運営指針」が2023年6月に「子どもシェルター全国ネットワーク会議」のプロジェクトチームにより策定されました。

「生まれてきてよかったね。

ありのままのあなたが、生きていい。」

「ひとりぼっちじゃないからね。」

「あなたの道はあなたが選ぶ。

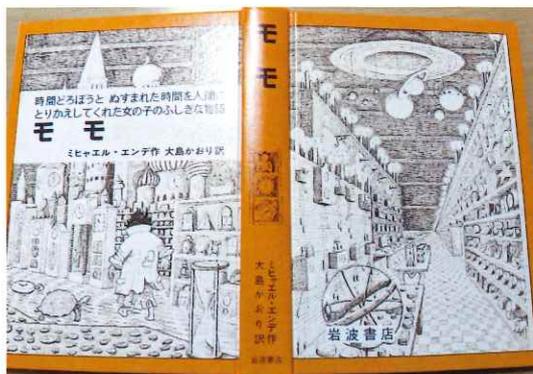
あなたが選んでいい。」

この三つのキーワードを念頭に置かれた指針です。シェルター職員としてこのキーワードを常に心に置き、子どもたちに接し伝えていくことで子どもたちに「安心安全な大人」と少しでも感じてもらいと思っています。そして、「安心安全な大人」もいるんだということを知ってもらうことで少しずつ元気になり、いつか一人で立ち上がり歩いて行ってくれることを願い子どもたちと日々を過ごしていきたいと思っています。

さて、ミヒャエル・エンデの「モモ」が法人の名前の由来です。そして子どもシェルターの名前である「モモの家」もまた「モモ」が由来です。主人公の「モモ」が出来たことは町の人たちの話を聞くことだと本には書いてあります。人の話を聞くことだけと書いてありますが、聞くことの大切さ、聞いてもらうことで自分の問題を解決していく村人たち。

子どもたちが抱えている問題を私たちが聞くこと

ですぐの解決できることはありませんが、子どもたちの言葉を「モモ」のように聞いていきたいと思えます。時間泥棒に時間を取られた人々と時間を取り戻すべく戦ったモモ。私たちスタッフは過ぎ去った時間を取り戻すことはできません。しかし過ぎ去った時間の中で感じるものがほとんどなかったであろう「自分の時間」を発見してもらえればと思っています。「自分の時間」を発見してもらうにはモモの職員が「安心安全な人」と子どもたちにほんの少しでも感じてもらえるようにしたいという思いでいっぱいです。シェルターにたどり着いた子どもたちの傷つきは大きく大人への信頼は皆無でしょうが根気よく接し過ごしていきたいと思っています。そして、子どもたちに話をしてもらえる存在になりたいと思っています。（文責：NY）



「あてんぽ」通信

新型コロナウイルス感染症も5類感染症となり、様々なイベントなども行われるようになり、生活に不自由を感じるものが少なくなってきました。

あてんぽでは4月から現在までに3人退居して2人入居してきました。現在、5人が暮しています。全日制の高校に通学する子、通信制高校に在籍してアルバイトやボランティアをする子など、それぞれが充実していて、子どもたちも職員も程よい距離感をもって過ごしているように見えます。

そんな中で、彼女たちが誕生日を迎える頃になると、職員はその子の好みのケーキを聞き取り、希望に近いケーキを作ってくれるケーキ屋さんを探します。探していて気づいたのですが、イチゴと生クリームだけのケーキが、意外とないのです。豪華に見せるためか、他のフルーツもデコレートしてあるので、シンプルなものを特別に作ってもらわないといけないので用意するのも一苦労です。

本人も一緒にお店に行くこともあります。「自分のケーキを買って、ホールでもらうのは初めて！」と喜んでくれました。

先日も誕生日を迎える子がいました。この子はアイスクリームケーキをリクエスト。職員はバースデーカードも用意しました。



バイトから戻って来たときに渡すと、何とも言えない嬉しそうな顔をしました。傍らにいた子も拍手でお祝いしてくれました。夕食には彼女の好みの物を一品プラスしました。

「くじけそうになった時、バースデーカードの職員の寄せ書き見て頑張ったんよ。」「〇〇さんの鶏のオープン焼き食べたいから今日あてんぽ行ってもいい?」「学校やバイトから帰った時、「おかえり!」と迎えてくれ、温かいご飯ができていてだけで日中の嫌なことが薄まった」と語ってくれる子もいます。

退居後の子たちから聞くこれらの声から、日々の暮らしの中の、小さな出来事の積み重ねが彼女たちを支えてきたのかなあと思えます。

嫌なことがあったらその感情をぶつけられる場所がある、安全な場所に安全な人がいる。ほんの短い間しか居ることはできないけれど、職員との出会いが、ちょこっとしたスパイスのような出会いになれたらいいのという思いで、日々暮らしています。

(文責：OA)



「学南ホーム」通信

職員がガラッと変わり学南ホームは新体制になりました。最初は「これからどうなるのだろう」と、不安が消えませんでした。とても頼りになる方々で、その不安はすぐ消え去りました。これまでの学南ホームにはない風を持ち込んでくれ、ホームの雰囲気も今までとは違ったものになりました。とても良い雰囲気が流れています。やることは多いので忙しくなるとは思いますが、今まで以上にやりがいを感じられるようになるのではと、今後の変化に楽しみがいっぱいです。

今年度に入り、学南ホームはイベント事にも力を入れています。この夏には子どもたちと一緒にBBQや花火、プールなどの行事を楽しみました。入居者の1人からは「今年の夏が人生で一番楽しかった」と言ってもらい、本当にうれしかったです。

イベントでは普段の生活では見られない子どもたちの姿も見ることができ、職員としても学びがありました。一緒に外出をすることはただ思い出を作るだけに留まらず、今まで見えていなかった課題や「そんなことできるのか」といった新しい発見をす

ることができるので大切な時間だと改めて思いました。

これからも、色々なイベントを開催して子どもたちに経験をしてもらおう場と思い出を与えられる機会を用意できたらと思います。

最後に、令和5年6月からホーム長をさせて頂くことになりました。前任のホーム長と比べて知識や経験が不足しているため、多方面にご迷惑をおかけす



花火を楽しむBOYS

る日々ですが、そんな私を職員の方々が手助けしてくれています。社会経験も私よりあるので色々なことを学ばせてもらっています。

粉骨砕身とまではいきませんが、自分ができることを精一杯無理のない範囲でやっていこうと思うので見守って頂けると幸いです。職員だけではなく子どもも含め力を合わせ、これまでよりも良い学南ホームを作っていこうと思います。これからもご支援・ご声援よろしくお願ひします。

(文責：紙谷拓実)



BQ サザエに苦心するBOYS

アフターケア

アフターケア「en」通信

ボードゲーム大会

毎月1回、ボランティアさんによるボードゲームの会を清輝橋の事務所で開催しています。顔見知りのなかった人たちなので、最初は緊張でなかなか参加できなかった人が、徐々に人や雰囲気慣れ、今では年齢や性格がバラバラな若者達が楽しそうに参加しています。1人がお題を決め周りがヒントを出していくゲームでは1人1人の個性がヒントに出てくるのでとても面白いです。また「ラミィキューブ」といった場に出ている数字をうまく並べ変えて手持ちをなくしていくゲームではみんな真剣な顔つきになり、勝負をしています。こうした交流の場は若者達にとって安心できる特別な場所になっているのではないかなと思います。



オートルオ



プロポーズのゲーム

類・日用品を持ち帰る事の出来る場所を岡町の事務所に常設しています。2021年11月から、延べ208人の若者に保存食939点、衣類323点、日用品583点を提供することが出来ました。月1回ですが、たくさんある中からので「どれにしようかな〜」と自分の好きなものを選べる楽しさを味わっているように見えます。そんな中、昨年、「感謝の気持ちを形にしたい」と自発的にメッセージを募るポスター「ありがとうプロジェクト」を作成してくれたMさんから、メッセージが届いたので紹介します。

「皆さん、いつもたくさんのご寄付をいただきありがとうございます。ありがとうプロジェクトを立ち上げて1周年になります。私だけではなく、多くの若者が利用し、メッセージボードにはたくさんの感謝の言葉が寄せられています。

いただいている応援が、日々の原動力にもなっています。代表し、心より感謝申し上げます。」

物価上昇が続いている中で、しえある一むの存在はとて大きいと感じています。今後も支援を求める若者達に応え

たいと思っておりますので皆さま、ご協力よろしくお願ひいたします。

(文責：黒木詩織)

しえある一む

応援してくださる方から寄付された保存食・衣

よろしくおねがいします！

～新しい職員の方々です～

- ①名前（よみがな）
- ②勤務を始めて今思うこと
- ③好きなこと／気分転換をすること

モモの家

- ①小埜 志保子（おの しほこ）
- ②以前は障がいを持つ人に就労支援訓練校で技能指導等を行っていました。特性を「強み」としたその人らしい働き方を一緒に模索してきました。モモでは「自己決定権」を大切にされた支援がなされていると感じます。困難を抱えた子どもが安心して自分らしく生きていけるような支援ができればと考えています。
- ③ヨガや土いじりが好きです。ストレス発散は友人達とのランチやお喋りです。



あてんぼ

- ①伊澤 加奈子（いざわ かなこ）
- ②これまでに学南ホームとあてんぼどちらにも非正規で勤務させてもらっていました。青年期の子どもと衣食住を共にし、彼らのあり方を知ることができたのは私にとって財産となっています。言動や行動にいつも翻弄されますが、小さな成長でも近くで見ることができ微笑ましく思います。これからもみんなで色々なことを経験して研鑽していきたいと思っています。よろしくお願いたします。
- ③運動が好きで、バレーボール、ランニングをしています。他に旅行、登山、友人とお酒を飲むことで日頃の疲れを癒しています。



学南ホーム

- ①南埜 充紀（みなみの みつき）
- ②日々の生活に関わるが大変なことを痛感しました。子どもに何か伝える、教えることが難しく自分が親にしてもらった事と照らし合わせて対応を考えたりします。自立に向け様々な事を学び、サポート



できるように我々も多くの事を学んでいきたいと思っています。

- ③バスケットボール、旅行

- ①原田 昂拓（はらだ たかひろ）
- ②入ってすぐにこれまでの「当たり前」が通用しないと感じました。今後は子どもとの関わりを通して、まずは自分自身が率先して学びます。彼らの自立に向けて、苦しい事にも立ち向かい乗り越えられるようにサポートしていきます。



- ③野球観戦、美味しいご飯屋さん開拓

- ①藤田 陽子（ふじた ようこ）
- ②楽しいです。これまでボランティアとして関わっていました。職員となると責任の重さも変わり、出来ることも増えるので、子どもたちとの日常からたくさん学びたいと思います。そして子どもたちにとっての最善な自立に向け一緒に考えていきたいと思っています。



- ③映像作品鑑賞 友達との食事

事務局

- ①黒木 詩織（くろき しおり）
- ②アフターケアに来る子どもたちに接しながらの業務は大変な面もありますが、やりがいも感じています。今後は事務とアフターケアを分けていく方針ですがアフターケアの補助としても動いていけたらいいなと思っています。
- ③自宅でシリーズ物の映画を一気見したりしています。



- ①原田 和子（はらだ かずこ）
- ②入職して日が浅い中ではありますが、職員の皆さんの子どもに対する真摯な姿勢に感銘を受けています。事務方として、そんな職員さんたちの力になれば幸いです。



- ③山登り、美術鑑賞、食べ歩きなど

